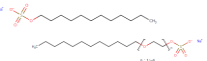
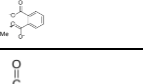
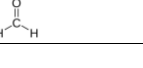
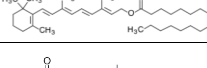
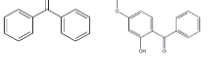
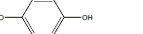
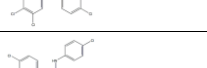
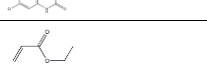
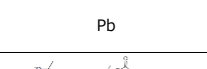
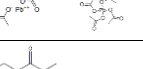
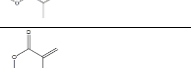
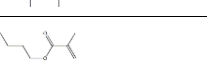

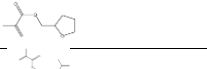
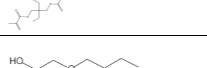
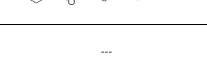
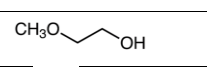

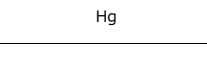

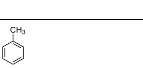




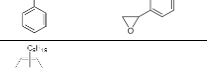

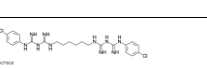
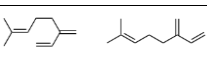






NO3 Clean Beauty Standard

成分・表示名	用途	リスク	化学構造	適用法令 (日本国内)	配合が好まれない理由	論文、文庫等
1. 硫酸塩: SLS / 脂肪酸 Na / SES / フォスホリン酸 Na	洗剤	刺激性			他の界面活性剤に比べて、皮膚や眼などに炎症を起こす可能性が高いことが示されている。一般的な配合が好まれない。軽微な皮膚刺激を起す可能性はあるが、一般的に皮膚刺激性は低いと考えられている。また、発がん性が指摘されているが、正確な因果関係は報告されていない。	https://www.medicaljournals.jp/ijpc/content/34/3/78 https://journals.sagepub.com/doi/10.3109/10915818309140713
2. フタル酸塩	可塑剤	内分泌かく乱作用 生殖毒性			内分泌かく乱物質 (環境ホルモン) である。乳児への作用は、乳児の健康に子どもの健康への影響を及ぼす可能性がある。	https://www.istage.jp/doi/pdf/10.3109/10915818309140713 https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
3. ホルモン様物質	化粧品原料	内分泌かく乱作用		配合禁止 (厚生省告示第331号 化粧品基準 添加禁止)	WHO国際機関である環境がん研究機関 (IARC) においてC1として発がん性を示す (Group 1) に分類されている。上記物質は、内分泌かく乱作用を示す。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
4. ホルモン様物質放出剤	接着力		---		ホルモン様物質の放出性はシクロリプタンシクロリプタン構造の環状である。強い臭い、眼、皮膚などの炎症を起こす可能性がある。	https://www.tandfonline.com/doi/abs/10.3109/1040844019019569
5. レチニド、ビタミンE、パルミチン酸、ステアリン酸	乳化剤				日光により分解された際、発がん性を示す可能性を示唆されている。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/ https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/j.1365-0774.2011.00557.x
6. ベンゾフェノドン 関連化合物	UV吸収剤				内分泌かく乱作用 (環境ホルモン) である。乳児への作用は、乳児の健康に子どもの健康への影響を及ぼす可能性がある。	https://onlinelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1046/j.1365-2230.2002.01095.x https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/j.1365-2605.2012.01280.x https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S00253707008888 https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S016012014001585
7. コールター	防腐剤	刺激性	---		IARC発がん性リストに記載されている成分である。	https://journals.sagepub.com/doi/10.1080/109158180802244405
8. ハイドロキノン	美白剤	刺激性			刺激により、下痢、皮膚に黒い斑を形成することによって悪化する。アレルギー反応を引き起こす可能性がある。空気中で目の刺激、角膜炎、失明を引き起こす可能性がある。	https://www.karqer.com/Article/FullText/454719
9. トロロキノン	抗刺激剤			上限0.10% (厚生省告示第331号 化粧品基準 添加禁止)	人体の免疫系への影響や環境ホルモンの作用を示唆されている。腸内細菌のバランスを崩して大腸炎を引き起こす。動物性食品や特定の菌種の減少に伴って、抗生物質の効率が低下し、抗生物質耐性菌の増加を促進する。	https://pubs.acs.org/doi/10.1021/es500495p
10. トロロキノン	抗刺激剤			上限0.30% (厚生省告示第331号 化粧品基準 添加禁止)	人体の免疫系への影響や環境ホルモンの作用を示唆されている。腸内細菌のバランスを崩して大腸炎を引き起こす。動物性食品や特定の菌種の減少に伴って、抗生物質の効率が低下し、抗生物質耐性菌の増加を促進する。	https://pubs.acs.org/doi/10.1021/es500495p
11. アクリル酸エチル	塗料・接着剤原料				アレルギー反応を引き起こす可能性がある。喘息、気管支炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性皮膚炎を引き起こす可能性がある。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
12. 鉛 (Pb)	金属	重金属			呼吸器や消化器を介して血液へ入ること、慢性骨髄質、高血圧、生殖機能障害を引き起こす可能性がある。	https://ehp.niehs.nih.gov/doi/pdf/10.1289/ehp.93100177
13. 酢酸鉛	金属	重金属			めしや、鉛筆の鉛芯などから摂取される可能性がある。	https://academic.oup.com/oxford/article-abstract/13/3/319/1642263 https://link.springer.com/article/10.1007/BF00179955 https://www.sagepub.com/doi/abs/10.1007/978-1-4613-1919-0
14. マクアミン酸エチル						
15. マクアミン酸メチル						
16. マクアミン酸ブチル	塗料・接着剤原料				アレルギー反応を引き起こす可能性がある。喘息、気管支炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性皮膚炎を引き起こす可能性がある。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
17. マクアミン酸ドデシルジメチル						
18. マクアミン酸ドデシルヘキシル						
19. トリメチロールプロパンジメチルアクリレート	合成樹脂の原料				皮膚、眼に有害な刺激性があり、ウツギを用いたドーズ試験の結果、中等程度の刺激性である。E.U.で、X1, R36/37(目と皮膚に刺激性を示す) に区分されている。	https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0214753020303401
20. パキシエタノール	溶剤				ラットの動物においては、2-トキシエタノールが代謝されて2-トキシエタノールに代謝される。ラットの動物においては、2-トキシエタノールは血液を通じて腎臓を介して肝臓に蓄積する。血液性貧血を引き起こす可能性がある。	https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0214753020303401
21. カーボンプラック	着色剤		---		微粒子である。肺の気管支部分に蓄積する。これによって呼吸器疾患や酸化ストレスによるDNA損傷が引き起こされる可能性がある。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
22. チチルブチルアルコール	溶剤				吸入または皮膚への吸収により、アレルギー反応を引き起こす可能性がある。喘息、気管支炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性皮膚炎を引き起こす可能性がある。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
23. チチルブチルアルコール	溶剤				吸入または皮膚への吸収により、アレルギー反応を引き起こす可能性がある。喘息、気管支炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性皮膚炎を引き起こす可能性がある。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
24. 水銀、水素化合物 (チマルル)	美白剤	重金属		配合禁止 (厚生省告示第331号 化粧品基準 添加禁止)	水銀はアレルギー性、経皮吸収される。水銀化合物の使用によるアレルギー反応を引き起こす。また、水銀化合物の摂取によるアレルギー反応を引き起こす。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
25. 不溶性プラスチックマイクロビーズ	スクラブ剤		---		海への流出により、海洋生物の健康や生態系に影響を及ぼす。	https://www.resource-recovery.net/sites/default/files/issue_plastic_microbeads_in_cosmetics_2014.pdf
26. 石綿 (アスベスト) を含まないタルク OK	触感改良		---		アスベストは、吸入または経皮に蓄積され、肺がんを引き起こす。また、アレルギー反応を引き起こす。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
27. トリエノール	溶剤				経口での吸入は、アレルギー性皮膚炎を引き起こす。また、アレルギー性皮膚炎を引き起こす。	https://ehp.niehs.nih.gov/doi/pdf/10.1289/ehp.94.1567945
28. BHA: ブチルヒドロキシアニソール	酸化防止剤				ラットにおける高用量のBHAで、乳腺腫瘍の発生率は結核の形成、前駆腫瘍が認められている。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
29. BHT: ブチルヒドロキシトルエン	酸化防止剤				ラットにおける高用量のBHTで、乳腺腫瘍の発生率は結核の形成が認められている。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
30. メタノール	溶剤			配合禁止 (厚生省告示第331号 化粧品基準 添加禁止)	メタノールは、アレルギー性皮膚炎を引き起こす。また、アレルギー性皮膚炎を引き起こす。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
31. アクリルアミド	合成樹脂原料				アレルギー性皮膚炎を引き起こす。また、アレルギー性皮膚炎を引き起こす。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
32. エチレンジミン	触感改良				アレルギー性皮膚炎を引き起こす。また、アレルギー性皮膚炎を引き起こす。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
33. ニルメチルニルメチル	触感改良				アレルギー性皮膚炎を引き起こす。また、アレルギー性皮膚炎を引き起こす。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
34. 加水分解コムギタンパク	保湿剤		---		加水分解コムギ (HWP: Hydrolyzed Wheat Protein) を含む。アレルギー性皮膚炎を引き起こす。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
35. コハルヘキシジン (グリコン酸塩及び塩酸塩)	保湿剤			配合禁止 (厚生省告示第331号 化粧品基準 添加禁止)	アレルギー性皮膚炎を引き起こす。また、アレルギー性皮膚炎を引き起こす。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/
36. シシエン	香料原料				アレルギー性皮膚炎を引き起こす。また、アレルギー性皮膚炎を引き起こす。	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC4781641/

37	塩化ベンジル (αロメチルベンゼン)	揮発性香料原料	<input type="checkbox"/> 皮膚 <input type="checkbox"/> 吸入 <input type="checkbox"/> 経口摂取 <input type="checkbox"/> 経皮吸収 <input type="checkbox"/> 水生生物	<chem>ClC1=CC=CC=C1</chem>	<p>汗腺より7割強に分泌を占めることが、組織損傷を生じることがある。皮膚が、性も示す可能性がある。動物試験では人で生損、発生毒性を引き起こす可能性が示されている。</p>	 塩化ベンジル.pdf
38	ブレノン	香料原料	<input type="checkbox"/> 皮膚 <input type="checkbox"/> 吸入 <input type="checkbox"/> 経口摂取 <input type="checkbox"/> 経皮吸収 <input type="checkbox"/> 水生生物	<chem>CC1=C(C)C(=O)C=C1</chem>	<p>げっ歯類に対する毒性を示す報告が多数あり、ヒト試験に対する投与実験では、mRNA発現量の増加が報告されている。</p>	 ブレノン.pdf
39	サフロール	香料原料	<input type="checkbox"/> 皮膚 <input type="checkbox"/> 吸入 <input type="checkbox"/> 経口摂取 <input type="checkbox"/> 経皮吸収 <input type="checkbox"/> 水生生物	<chem>CC1=CC=C(C=C1)OC2=CC=CC=C2</chem>	<p>重症肝臓がん性が報告されている。サフロールに含まれるメチレンジオキシフェニル構造の反応生成代謝物(84%)が肝毒性を誘発する可能性が実証されている。</p>	 サフロール.pdf

成分・表示名	用途	リスク	化学構造	適用法令 (日本国内)	配合が好ましくない理由	論文・文献等
--------	----	-----	------	-------------	-------------	--------

制限成分							
40	パラベン	防腐剤	<input type="checkbox"/> 皮膚 <input type="checkbox"/> 吸入 <input type="checkbox"/> 経口摂取 <input type="checkbox"/> 経皮吸収 <input type="checkbox"/> 水生生物	<chem>CC(=O)OC1=CC=CC=C1</chem>	<p>上限1.0% (各種増量計量として) (厚生省告示第331号 化粧品基準 添付リスト)</p>	<p>女性ホルモンのエストロゲンに似た働きをするパラベンがホルモンを破壊し、乳がんのリスクを増加させているという説がある。</p>	https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S004100260985441
41	フノキシエタノール：1%未満	防腐剤	<input type="checkbox"/> 皮膚 <input type="checkbox"/> 吸入 <input type="checkbox"/> 経口摂取 <input type="checkbox"/> 経皮吸収 <input type="checkbox"/> 水生生物	<chem>CCOC1=CC=CC=C1</chem>	<p>上限1.0% (厚生省告示第331号 化粧品基準 添付リスト)</p>	<p>1%フノキシエタノール配合水性クリームに対する人パチテストの結果、接触性皮膚炎の症状、兆候及び刺激無し。(n=2736)文献1、ラットに対する経口投与した際の毒性無し。一方、ウサギを使用し試験では2.0%フノキシエタノールにおいて皮膚に対して軽微な刺激を認めた。</p>	<p>https://transacc-googlesusercontent.com/translate_c?depth=1&hl=j&prev=search&ptq=au&url=https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S004100260985441</p>
42	ナノ粒子-EU定義	透過性、機能性を高める	<input type="checkbox"/> 皮膚 <input type="checkbox"/> 吸入 <input type="checkbox"/> 経口摂取 <input type="checkbox"/> 経皮吸収 <input type="checkbox"/> 水生生物	---		<p>文献無し。ナノマテリアル化することによる人体への影響不明 (特にナノマテリアル化していない物質と比較し物質の濃度が大きくなる。皮膚透過率による影響を懸念)、環境中に放出した際、回収不可</p>	
43	DEA：ジエタノールアミン	活性剤	<input type="checkbox"/> 皮膚 <input type="checkbox"/> 吸入 <input type="checkbox"/> 経口摂取 <input type="checkbox"/> 経皮吸収 <input type="checkbox"/> 水生生物	<chem>CCOCCNCCO</chem>		<p>DEAによるDNA欠乏ががん発生のリスクを引き起こす作用機序の中心であるという仮説を支持する結果が報告されているため。 ※この情報源ではDEA処理してもDNAは合成しなかったため、ヒトでの発がんリスクは少ない</p>	https://academic.oup.com/toxsci/article/67/1/38/1663430
44	メチルイソシアリロン	防腐剤	<input type="checkbox"/> 皮膚 <input type="checkbox"/> 吸入 <input type="checkbox"/> 経口摂取 <input type="checkbox"/> 経皮吸収 <input type="checkbox"/> 水生生物	<chem>CN1C=CC=C1</chem>	<p>化粧品使用化粧品：配合禁止 リピーン化粧品：上限0.01% 洗い髪化粧品：上限0.01% (厚生省告示第331号 化粧品基準 添付リスト)</p>	<p>メチルクロロイソシアリロンとの混合物でのアレルギーが多く報告されておらず、メチルイソシアリロン単体でも高濃度(600ppm以上)では、皮膚感作性を認められた。</p>	<p>https://journals.lww.com/dermsci/Fujitext/2013/01000/Methodologyoftheisothiazolone2.aspx</p> <p>https://journals.sagepub.com/doi/pdf/10.1177/1091581810374651</p>
45	動物由来の油：ムスク、脂肪	油剤	<input type="checkbox"/> 皮膚 <input type="checkbox"/> 吸入 <input type="checkbox"/> 経口摂取 <input type="checkbox"/> 経皮吸収 <input type="checkbox"/> 水生生物	---		<p>分解されにくいため、体内に蓄積しやすい。特に、脂肪組織に蓄積しやすいため、母乳を介した乳児への経母乳移行が考えられる。</p>	https://link.springer.com/chap/10.1007/978-1-4419-1412-4
46	1,4-ジオキサソリン ：高い値が製品は10ppm以下、リピーン製品は5ppm以下	活性剤の製造副生成物	<input type="checkbox"/> 皮膚 <input type="checkbox"/> 吸入 <input type="checkbox"/> 経口摂取 <input type="checkbox"/> 経皮吸収 <input type="checkbox"/> 水生生物	<chem>C1CCOCC1</chem>	<p>10ppm以下 (日本化粧品工業連合会の規程 (ICCRの勧告をみた))</p>	<p>マウスに1,4-ジオキサソリン高濃度を経口投与させると、2年間において250mg/kgに1250ppm濃度の生存率は低下した。</p>	https://www.tandfonline.com/doi/abs/10.1080/08955379802629610